



# 学校だより

令和3年度 11月号  
令和3年 11月1日  
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

本は自分を高める栄養素  
～本は心の栄養～

校長 小林 正樹



2学期も半分を折り返し、最近ずいぶん日が短くなり、朝晩の冷え込みも厳しくなってきましたが、保護者・地域の皆様にはお変わりございませんでしょうか。

10月26日(火)にさいたま市中学生駅伝大会が駒場スタジアムで(コロナ感染防止策として荒川総合公園が使用できないため)行われました。夏休み明けから練習を始め、朝練習や、中間テストの時期に並行した練習など、生徒たちは大変だったと思います。当日は学校の代表として、大谷口中学校の誇りをもって走り切ってくれました。駒場スタジアムでは、駅伝形式でなくタイム走となり、駅伝ならではの襷をつなぐという場面は見られませんでした。しかし、アップする選手をサポートメンバーが励ましたり、拍手で応援したりする姿、指導者の先生方の熱い雰囲気を見れば、「チーム大谷口中」の襷はしっかりと繋がっていると実感しました。そのおかげで、参加校62校チーム中、男子チームが4位となり第89回埼玉県駅伝競走大会に出場となりました。女子チームも42位で健闘しました。これも選手、サポートメンバー、ご家庭の協力があったことです。生徒の頑張りに感動しました。ありがとうございました。

話は変わりますが、本校では、毎朝10分間を使って朝読書を実施しています。時間になると学校中が静まり返り、落ち着いた雰囲気の中で読書が始まります。また、図書委員会の活動も活発で、委員の生徒たちはいろいろな機会をとらえて、読書活動の大切さを呼びかけてくれています。昨年度の学校図書館の本の貸出総数は、年間2,655冊で、一人当たり3.8冊となっています。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学校図書館の入館人数を一日16名までとした代わりに、貸出期間を30日間に伸ばしましたが、残念ながら貸出総数は減少しました。しかし、今年度は10月末で3,400冊を超えています。すばらしいです。

ここで私が最近読んだ本を紹介します。それは、アメリカ大リーグエンゼルスで活躍している大谷翔平選手を高校時代から取材しているあるジャーナリストが書いた「道ひらく、海わたる」(佐々木亨著・扶桑社)という本です。その中に「大谷が高校を卒業する日。監督は大谷に一冊の本を手渡している。夢をどのように描くのか。その描いたものをどう実現していくのか。人間として一番大切なことは何か。手渡した『生き方』(稲盛和夫著・サンマーク出版)という本には監督の教えが詰まっていた」という一節に惹かれ、その後も大谷選手が愛読しているという本を私も購入して読んでみるようになりました。本は自分の考えを豊かに広げ、元気にしてくれる栄養素のようです。読書に関するあるアンケート調査の結果を見ると、朝読書を行っているにも関わらず、その月に読んだ本の冊数は「0冊」と回答した生徒もありました。私も読書することで得られる効果や喜びを生徒たちにしっかりと伝えていく重要性を再認識しました。私自身、学生時代を思い返すと、読書より運動という生活を送ってしまい、何でもっと本を読んでこなかったのかと今でも後悔しています。読書をすることで、集中力や学習能力も上がったり、語彙が増え文章を書く力も豊かになったりと様々な効果が期待できます。学校では引き続き朝読書をはじめ、読書活動の推進に取り組んでまいります。ご家庭でもぜひ本を読むことが自然な家庭環境をつくっていただくよう願っています。私は学校と家庭が力を合わせ、子どもたちに読書の習慣を身に付けていきたいと考えています。読書の秋に、例えば親子で同じ本を読んで、一緒に感想を語り合うというのはいかがでしょうか。

さて、先週の水曜日から全校三者面談が始まっています。思春期にあたる中学生のこの時期は、だれもが何かしらの悩みを抱えながら学校生活を送っているはずで、面談では、学校や家庭でのお子さんの生活ぶりや、学習面など心配されていることがあれば遠慮なくお聞かせください。3年生にとっては、いよいよ進路について具体的な話を進めていく時期となりました。自分に合ったよりよい進路決定ができますよう家庭と学校が力強く連携していきましょう。

結びに、新型コロナウイルス感染症防止について、ご家庭におかれましても、基本的な感染症予防への取組を引き続きよろしくお願いたします。